

2015年5月号

Vol.26

¥0



こどもの国地域
非公式SNS
LINE
Twitter

開園当時の3大トリビアを紹介!します

天皇皇后両陛下の結婚を記念して1965年に開園したこどもの国が5月5日に50周年を迎えます。これまでの来園者は約4100万人。記念行事がさまざま予定されていますが、基本情報はそういった公式行事にお任せして、今号の国マガではそこからほれ落ちそうなトリビアな情報をお届けします!!

トリビアその1

ライバルはデイズニールランド?



こどもに向けた作品を多く手がけた劇作家・飯沢匡も「こどもの国」のコンセプトを語っています。この記事で引き合いに出されているのが、アメリカの本家デイズニールランドなんです。曰く「デイズニールランドは大人がいろいろ趣向を凝らした設備をして（しかも高いお金を一つ一つとって）子供たちの御機嫌をとるのですが、ここ（編注：こどもの国）では、子供たちに自由に遊ばせて、子供たちの考えで子供たちの工夫で汗まみれになる」今、日本にある遊園地は、この息もつまるようなデイズニールランドが多いようです。なるほど。大掛かりなアトラクションをつくるのではなく、自由にこぼれまわゆる空間が第一に考えられていたのです。現在、テーマパークは競争が激しく、どんどん派手になっていますが、こどもの国は開園当時から、そのコンセプトを守り、独自路線でしっかり50年。これはこれで誇るべきことなんです。

トリビアその2

初日は17万人が来場



50年前の開園当日は、あいにくのくもり空。しかし、この年のゴールデンウィークは雨がちびつたようで、天気にも恵まれたといえるでしょう。この日はなんと予想の2倍以上、17万人が詰めかけたようで、園の内外で大混乱。トイレには長蛇の列、長津田駅〜こどもの国間のバスは片道2時間以上もかかったという混雑ぶりだったようです。今ではなかなか想像がつかないですね。

トリビアその3

幻の子ども自動車があった!!



開園の際、目玉のひとつだったのが、こども用自動車「ダットサンベビー」。残念ながら今は園内で見ることはありませんが、開園50周年を期に修復された一台が、先月、日産グローバル本社ギャラリーで公開されていました。実物の作りは超本格的。30キロほどのスピードも出せたようです。交通ルールの教育を意図していたようですが、スピードに魅せられた子どももいたでしょう。

漫画で学ぼう

こどもの国史

加藤シユンスケ



50年ってスゴいのか?

こどもの国は1965年に開園したよう、今年めでたく50周年を迎える。この「50」という数字を聞いて、単純に「すごい」と思う一方、でも、それってどうすごいのか? と疑問も湧いてくる。アニメーションというものは、「ここまで技術が進歩した」とか、「売上が倍増した」といった大きな変化で、その時間の蓄積を理解するところがある。



コラム 育ち線 1965?

あのアートネイチャーも1965年に創業している。おそらく、創業時のかつらは、ギャグマンガで描かれているような「帽子に毛の生えたようなもの」だったに違いない(たぶん、だけ)。そこから50年経つと、シャンプーも寝るときもかぶったままでOKという、ほぼ地毛のような夢のかつらが開発される。こういった劇的な変化がある



と、50年間の営みがとても分かりやすい。それからすると、こどもの国はどうだろうか。今号のために当時の新聞などを読んでみたが、開園当初から、今、こどもの国と聞いて想像できるもの。例えば、牧場、湖、キャンプ場。は、ほぼ用意されている。また、シンボルとなる建物も大幅に改築されたわけでもなさそう。もし、こどもの国に入園するタイミングと、50年前にタイムスリップしたとしても、そのまま気付かずに一日遊んでしまうだろう……これはさすがに言い過ぎだが、要は、こどもの国の場合、50年間の変化が小さく、時間の蓄積がイマイチ伝わってこないのだ。小手先だが、50周年を「半世紀」と言い換えてみると、いくぶん「すげー」という気分になってくる。この言換えには、例えば、味のよくない中華料理屋の看板に「半世紀変わらぬ味」と謳われると、もしかしてこのマズさにもこだわりみたいなのも隠されているのではないかと、思えてくる効果がある。つまり、「半世紀」とすると、なぜか「変わらなかつたこと」も偉大に感じてくるのだ。

この例が悪くて、こどもの国が惰性で50年間続いているだけだ、といっているように聞こえる読者がいるかもしれない。いやいや、変わらないことだって、相当な努力が必要だ。先月、ポールマッカートニーの来日公演を見てきたが、あの72歳は昔の曲を昔のキーのまま歌っていた。や、このポールの努力とこどもの国が同じという、それはそれで言い過ぎなような気がするぞ。

うーん、ぐだぐだといっているうちに、紙幅が尽きてしまった。

ま、ともあれ、こどもの国には、この先もぬる〜く続いていくことを祈っております。

本作品は『こどもの国30年史』の内容を脚色したフィクションです

By オオキ

◆いい唄、あります

シンガーソングライター 松井文



- ブログ <http://piggyma.jugem.jp>
- のろしレコード <http://noroshi-record.tumblr.com>
- レギュラー FMおだわら(78.8MHz)「風の向くほうへ」
毎週金曜22時〜/日曜18時〜(再放送)

わしない時代だからこそ聴くべきものだと思はるのです。そして5月6日、彼女が同世代のミュージシャン3人と立ち上げたインディーズレーベル「のろしレコード」より、所属メンバーの楽曲を集めたアルバム『のろしレコード』がタワーレコードやHMV、Amazon等、全国で発売になります。

◆松井さんあれこれ

本格的に音楽活動を始めたのは高校の同級生と組んだバンドから。通好みなセンスが光る楽曲は音楽好きにも認められ、10代限定のオーディションイベント「閃光ライオット」では全国5000組の中から最終16組にまで選ばれた快挙を果たします。バンド解散後、20歳の時にライブハウスの働き口を紹介され、単身大阪に移住して弾語りしながら腕を磨きました。現在は地元であるこちらに戻り活動をしています。最近音楽雑誌のコラムで取り上げられるなど、じわじわと注目度があがっているアーティストです。

◆PV作りました

今回松井さんの特集するにあたり、コーヒー専門店「GRIVE」さん協力のもと、アルバム収録の名曲「のろし」の演奏と読者のみなさんへのコメントを撮影させていただきました。QRコードまたは、YouTubeで「国マガ 松井文」と検索すれば観ることができます。少年のような声にのせた染み入る歌詞を聴くと「よっしゃ、がんばるか」と元気が湧いてきます。心に響いたのなら、ぜひライブに足を運んでみてください。個人名義のアルバムも出ていますよ。また「FMおだわら」でMCを勤めているラジオ番組「風の向くほうへ」も要チェックです。こちらはネットでも聴くことができます。いつかこの町の人々の前でも唄ってほしいですね。本人は「もう少し有名になつてから(笑)」と言っていますが。

『のろしレコード』

■発売日 2015年5月6日
■価格 ¥1,500 (税抜き)
■収録曲 7曲入り
■アーティスト 松井文、松坂悠太、折原ゆき
■販売元 (株)ウルトラ・ヴァイブ



短編小説

二の母の記憶

安原マヒロ

二れから

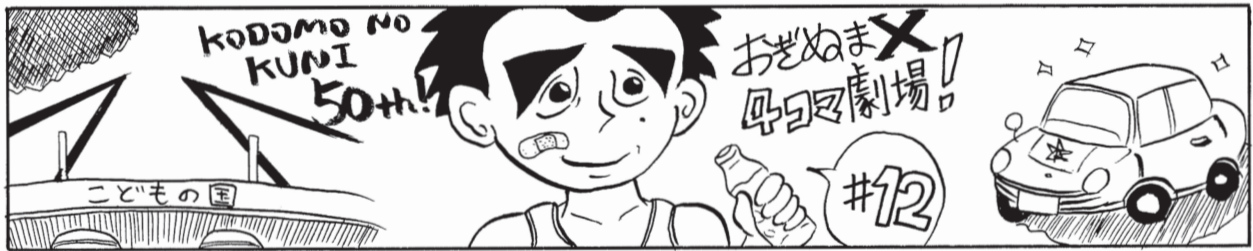
半ば家出のように上京し、製紙工場働きながら小説を書いていたものの、毎月めくる文芸誌には、自分より下手としか思えない作品が載り続けていた。いくつもの賞へ送ったのか、とんと見当がつかないが、印刷代と切手代の元は未だとれない。気づけば十年。「もはや戦後ではない」というあの流行語さえ遠のいた。東京での五輪開催が決定してから、熱い潮流のような空気が世の中を覆った。俺の筆はそれと反比例するように鈍り、同僚が目を輝かせて語るパレーボールのメダルの話題などに興味も持たず、せめて五輪が終わればこの居心地の悪い熱気も退くだろうと考えていたが、一年経つても一向に退かない。この国は俺の気持ちとは正反対に動いている。俺の敬愛する作家が、この周辺の田園を舞台にした小説を書いていた。この土地の空気に触れれば、俺の作品も創作意欲も、多少なりとも快復する。そんな心づもりで訪れたものの、T駅から乗ったバスが大きな間違いであった。このバスの行き先、「こどもの国」。最近開園したそうだが、なんとふざけた名前だろうか。

山と峠を越えたバスは、やがてこどもの国の大きな門の前へとたどり着く。子どもたちは親を置いて、我先にと駆けだしていった。重い足取りで彼らの後からチケットを買って入園した。いや、驚いた。これは本当にこどもの国だ。広大な芝生の上を無数の子どもとその家族たちが戯れている。恐るべき熱気。俺が悩みながら書く駄文の山など、この子らには全く影響しない。眼前、圧倒的な時代の波。思わず笑みがこぼれた。筆を折る時なのだろう。靴から書きかけの原稿を取りだし、ゴミ箱に近づいたその時だった。

「お、いましたね！ タイミングばっちり！」
俺は妙なイントネーションの発音で後ろから声をかけられ、振り向いた。見たことのない、若い女が立っている。なにか強い違和感を抱く若い女で、妙な髪色をしている。

「その捨てようとしている原稿をくださいよ」
「原稿？ なぜ？」
「んー説明が面倒。とにかくね、あなた二百年後には最高に評価されている作家なんです。でも、デビュー前の原稿が結構紛失してましてね、二百年後の著作権法では過去の紛失原稿も遺族の許諾があれば過去に遡って保存することが許されるんです。ま、捨てるんならくださいってことです」
そうやって女は雑に俺の手から原稿を奪い取った。

「それじゃ、記憶は消させていただきますね。いやあ、しかし：若い頃はなかなか男前ですね。正直好みです。ん、大丈夫。この場所を舞台に、あなたは良い作品を書きますよ。SFですけれどね」
頭上で響く子どもたちの声で俺は目を覚ました。どうやら芝生で寝てしまったようだ。少し頭が痛い。なにか遠いところに行つて帰ってきたような心持ちで、しかし、なぜか様々な事象が頭の中で形を結び始める昂揚感。なんだろうか、この感覚。これでは筆はまだ折ることはできないんじゃないだろうか。思わず笑みがこぼれた。



国マガ年鑑発売中!

★2013～14年の『国マガ』の歩み『国マガ年鑑』! 『Coonie』『GRIVE』『昭和書房』『スリーエフ・こどもの国店』『MONT』で販売中!

『国マガ』の感想アンケートはこちらからどうぞ!
QRコードからアクセス!

■国東地区	■奈良北地区
・コンビニ「スリーエフ・こどもの国駅前店」	・本・文具「昭和書房」
・パン「MONT」	・パン「Coonie」
・カフェ&ランチ「おぐに」	・とんかつ「かつ元」
・歯科「こどもの国歯科」	■青葉台地区
・そば「なごみ」	・パン「COPPET」
・イタリアン&バー「Bacchus」	・接骨院「あっぷる鍼灸接骨院」
・コーヒー「GRIVE」	・美容室「カットクラブKOGA」
・ケーキ&喫茶	■田奈地区
「セントポーリア」	・不動産「太平プラン」
・焼肉「はち」	■町田市
・カレー「なつめ」	・古着「ULTRABO」
・板金&塗装「井組自動車工業」	

国マガを置いていただける店舗を随時募集中
お店を店頭にて紹介お問い合わせは
誌面末部のメールアドレスまで!

STAFF

加藤シュンスケ (代表) 会社員/イラストレーター (@kato_two)
こどもの国50周年おめでとうございます。かのネズミの王国が30年ぐらいたったから、我々の国は大先輩というわけですよ。どうでしょう、これを機会に国マガというフリーペーパーをこどもの国に置いてみるのは。

サリー志村 編集者 (@shimamuramasari)
1965年は、アニメ『オバケのQ太郎』が放映開始される年でもあり、その主題歌は「頭のてっぺんにはけがさんぼん」。同年のアートネイチャーの創業を嘲笑うような偶然です。

オオキ 長男 (@OhQute)
こどもの国の開園式には、坂本九や当時の総理大臣佐藤栄作も列席したそうです。当時は山と田んぼしかないような場所だったのに、そんな有名な人や十数万もの人がやってきて、地元の人はずいぶん驚いたでしょうね。

おぎぬまX 元芸人 (@oginuma_x)
小田急線の立食いそば店「箱根そば」に入ると、創業50周年を記念した割引券が付いてきました。意外なところに、こどもの国の同級生がいるものだなあ〜、としみじみしてたら目の前のきつね蕎麦がデロデロに伸びてきました。あっちゃ〜

安原マヒロ ウェブ編集/ライター (@MahirOrihaM)
ご成婚の際に集まったお祝い金を子ども達のための施設設立に、という両陛下の希望でこどもの国は作られました。その素敵なアイデアがなきゃ国マガもなかったし、国マガ周りの人たちにも会えてなかったらなあ。
★スタッフへのお仕事の依頼も受付中!

こどもの国系情報誌「国マガ」Vol. 26
発行日 2015年5月5日
編集人 加藤シュンスケ 安原マヒロ
連絡先 kunimaga920@gmail.com
Facebookにてバックナンバー配信中! → <https://www.facebook.com/kunimaga>

Facebook twitter
Twitter ID @kunimaga920